

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門基礎科目	159	2年	前期	看護学科	必修	臨床病態学Ⅳ Clinical Pathophysiology Ⅳ	30	1
担当教員								
竹内 一人	今村 高暢*							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
○	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
○	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
○	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
高齢化社会の到来とともに高齢者医療に対する関心の高まりはただ単に医学に留まらず、社会、経済のあらゆる分野に及んでいる。高齢者はその生理や代謝の面から多くの点で若い人と異なっている。高齢者の臨床を行う際にはその身体的特徴および疾患の特徴を十分に把握する必要がある。近年、精神疾患も病態解析がなされ、疾患特異性が明らかになってきている。そのため、疾患の診断基準・病態（発症要因、症状、経過、予後）や標準的な治療を理解することはこれからの診療に不可欠である。これらを学んで修得し、医療従事者として、実際の現場において、医師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、介護福祉士などのスタッフと密な連携をとって行動できるようになるために、医療に携わるうえで必須な臨床医学の知識を身につける。								
到達目標（授業目標）								
①高齢者のケアに必要な内科、泌尿器科、整形外科疾患および精神・神経科疾患の病態生理と診断法・治療法について説明できる。								
②精神医学についてはそれらの疾患の診断基準・病態（発症要因、症状、経過、予後）や標準的な治療について説明できる。								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
回								
1回	高齢者医療（総論1）・高齢化の現状、老化の概念・メカニズムについて講義する。・竹内 一人							
2回	高齢者医療（総論2）・老化について（老化とアンチエイジング）、加齢による身体の変化について講義する。・竹内 一人							
3回	高齢者医療（総論3）・高齢者に起こる疾病の特徴、高齢者に特有の症状1（老年症候群1）について講義する。・竹内 一人							

4回	高齢者医療（総論4）・高齢者に特有の症状2（老年症候群2）、高齢者の臨床検査、栄養療法、薬物治療について講義する。・竹内 一人
5回	高齢者医療（各論1）・高齢者で注意を要する疾患1（循環器疾患、血管疾患）について講義する。・竹内 一人
6回	高齢者医療（各論2）・高齢者で注意を要する疾患2（老化と疾患、代謝疾患）について講義する。・竹内 一人
7回	高齢者医療（各論3）・高齢者で注意を要する疾患3（運動器疾患、骨粗鬆症、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイル）について講義する。・竹内 一人
8回	高齢者医療（各論4）・高齢者で注意を要する疾患4（神経疾患・認知機能障害）について講義する。・竹内 一人
9回	精神医学（1）・統合失調症について講義する。・今村 高暢
10回	精神医学（2）・気分障害について講義する。・今村 高暢
11回	精神医学（3）・パーソナリティ障害について講義する。・今村 高暢
12回	精神医学（4）・神経症について講義する。・今村 高暢
13回	精神医学（5）・嗜癖について講義する。・今村 高暢
14回	精神医学（6）・発達障害、知的障害について講義する。・今村 高暢
15回	精神医学（7）・摂食障害について講義する。・今村 高暢
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	

成績評価方法及び基準

竹内担当分野 50%、今村非常勤講師担当分野 50%（内訳：試験のみ）。

評価は100点満点とし合計60点以上を合格とする。

教科書	北川公子ほか「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」（医学書院） 佐々木英忠ほか「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」（医学書院） 武井麻子ほか「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」（医学書院）
参考図書等	必要時適宜紹介する。

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

関連科目

前科目	156	臨床病態学Ⅰ(共)	216	老年看護対象論					
後科目	157	臨床病態学Ⅱ(共)	228	精神看護対象論					

実務家教員

医師（医療機関）	竹内 一人	今村 高暢*				

備考	
----	--